

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

| | |
|-------|------------------|
| 施設名 | 芝公園二丁目保育室 |
| 施設所在地 | 東京都港区芝公園2-12-10 |
| 法人名 | HITOWAキッズライフ株式会社 |

1. 活動のテーマ

<テーマ>

| |
|----|
| 絵画 |
|----|

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

| |
|--|
| 一昨年からアトリエ活動を始め子どもたちが自主的に作りたいものや描きたいものなど自由に制作してきたため、探究活動に絵画を選び絵画の楽しさや表現方法など探究出来たら良いと考えテーマ設定をした。 |
|--|

2. 活動スケジュール

6月26日～8月中旬 子ども達の興味を探るために、絵を描く道具や様々な絵画技法、有名な画家を知り子どもたちが感じたままに絵画表現を楽しむ。有名な画家の本を子どもたちと読み合ったり絵本の絵画を飾ることで子どもたちの想像を膨らませる環境設定をする。

8月21日26日 美術科大学の准教授を招き今の子どもたちの興味が強い「絵の具」を使用した色遊び活動を実施したり、スタッフ向けの研修をプロジェクターとスクリーンを使用し実施。表現遊びについて学び、絵の具の種類や描きやすい濃度を実際に体験しながら絵の具活動の環境を考えていく。

9月～ 絵の具の感触を十分に味わえるようどろんこプレートを使用しながら絵の具活動をおこなう。感触遊びに適した濃度の絵の具を準備したり、絵の具活動を十分に楽しめるよう床に防災レースカーテンをしき床にも描ける環境をつくる。

10月3日 准教授が来園し、子どもたちと一緒に屋上で絵の具活動を実施。活動中のスタッフの言葉かけの仕方や見守り方についてアドバイスをもらう。その後の活動において、絵の具の感触が味わえる環境設定や描くことを楽しめる環境を設定していく。絵の具の感触を楽しむことから描くことへと興味がうつってきたためトレース台とトレーシングペーパーを使って描いて写し取るという活動も実施する。

11月19日 准教授によるスタッフ向け研修。環境設定について学ぶ。活動の目的と手段について再度考えを深めた。

11月27日 表現の楽しさや創造性の高まりをねらいとして、森ビルアートミュージアムに行く。そして、光や形に興味が出たのでルミブロックやライトテーブル・ルミボードを使用し光で現れる色の混ざりや形の大小のついて探求を深めていく

1月27日 准教授来園 2月 活動まとめ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

研修：プロジェクター、スクリーンを使用し造形表現について学ぶ

十分に絵の具遊びができる環境として絵の具や筆・画用紙・紙などで画材を準備。室内の絵の具活動時、床にも描けるように防災レースカーテンを敷いたり、机にテーブルクロスを敷いて絵の具活動をおこなう。子どもたちは白Tシャツを着用し、自分たちの服にも描けるよう準備する。様々な表現方法を知る方法として、森ビルアートミュージアムへ出かけたり有名な画家の絵本、絵画を取り入れる。光の混色や形大小の探求をするため、ルミボードやライトテーブル・ルミブロック・ウォーターブロックを使用する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 1、造形表現について学び、造形活動における保育者の視点を統一する：准教授の研修
- 2、造形表現の環境づくり（絵の具）①：絵を描く道具や表現方法を絵本絵画や有名作家の本を用いながら感じたままに絵画表現をする
- 3、造形表現の環境づくり（絵の具の感触）②：子どもの現在の姿や興味にもとづいた環境を準備する。描くことよりも感触を楽しみたい子どもの姿を捉え、絵の具の感触遊びを深める絵の具活動を繰り返しおこなう
- 4、造形表現の環境づくり（描く）③：絵の具の感触を味わうことから描くことに興味がうつってきている姿から、筆や鉛筆などで描くことができる環境設定し繰り返しおこなう
- 5、造形表現の環境づくり（光や形）④：表現することの楽しさを深めるために森ビルアートミュージアムに出かけたり、ルミブロックやルミボード等光の混色や形の大小を表現できるような環境を設定し繰り返し活動をおこなう
- 6、毎月ドキュメンテーションで保護者に配信し、造形表現について振り返り発信する

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

①様々な道具や技法を使い表現する

日頃からアトリエ活動をおこなったり、制作や絵の具が好きなおもたちの姿から様々な画材を用意し自由に表現していく。道具の違いによる表現の違いに気づき、色の濃淡や色の混ざりによる変化を探求する子どもがいた。有名作家の本を用いた時には、「どうやってかいたんだろう？」という疑問を抱いており、保育者が筆の様々な使い方を伝えながら子どもたちが自分で考え絵の具表現を深めていく。

②絵の具の感触を味わう

表現活動をする中で、絵の具活動を好み楽しむ姿から、大きな紙と絵の具・筆を準備し存分に絵の具活動を楽しめる環境を設定。最初は「どこにかいたらいい？」「手にもぬっていい？」と悩む姿もあったが、繰り返し活動する中で手足に絵の具を塗って感触を味わってみたり、友達と色から連想されるもの（海やジャングル・街など）を共同で描くようになる。紙だけでなくビニールやダンボールなど異なる素材に描くことでの違いにも気づき「ふわふわしてるね」「ここは固いね」と発見を楽しんでいた。

③絵の具や鉛筆を使用し描いてみる

感触を味わう中で、何かを描く姿が増えてきたことから描くことを楽しめる環境を設定。スタンプや筆を使い自由に描いたり、トレース台を使用し自分の顔写真など写し書きすることを楽しむ。トレース台で写真が光で浮き出てくる不思議に気づき興味を持つ子どもが多かった。筆を使って太い線や細い線、長い線や短い線を描き筆の使い方を探求することで表現の幅が広がった。

④光を使った造形表現を楽しむ

絵の具を楽しむ中で色の変化に深く興味を持ったり、アートミュージアムで光の色の混ざりに興味を持つ姿から、ルミブロックやライトテーブル・ランプを使って表現を楽しめる環境を設定。カラーセロファンを光に当てると色が違って見えることや、異なる色の光が混ざることによる色の変化に驚く姿があった。



<振り返りによって得た先生の気づき>

・取り組み前は、自由に描いていいと伝えると「なにをかいたらいい?」「どうやってかいたらいい?」等、何かわかるものを描かなければと感じ表現しにくい姿や、制作は好きだけど絵の具が手につくことをうやがる子どもの姿があった。またスタッフの認識の中にもきれいに描いたものや何を描いたかわかるものが作品であるという認識が強い部分があった。様々な環境で造形表現や絵画表現を繰り返し取り組み、素材をとことん味わうことで感じたままに自分で表現してみようとする積極的な姿が増えていった。また、絵の具が苦手だった子どもも周りの友達や保育者が繰り返し絵の具活動を楽しむ姿を見て少しずつ絵の具に触れ参加するようになり全身で絵の具を楽しむようになった。活動を繰り返す中で子どものつぶやきや姿から興味や疑問を拾い環境を作っていくことで、子どもがより主体的に活動に参加していく姿を実感することができた。道具や素材をとことん知ること子どもたちの表現の幅の広がりを感じることができた。スタッフの認識の中でも、何か作品を完成させなくても子どもたちが素材から何かを感じありのままに表現しているものもとても素敵な作品であるという認識に変わっていった。今後も子どもたちの興味や疑問にアンテナを広げ環境を整えていくことで子どもたちが主体的に活動できるよう保育を展開していきたい。